

# 高倉獅子舞



日時

11月2日(金)13時～

3日(祝)12時～

場所

高倉日枝神社ほか

問合せ先

生涯学習スポーツ課文化財

担当(☎285・2194)

みよりの秋が来た。

今年もまた獅子舞の笛の音が、高倉の人々の心根と共に青空高く響きわたる。

：ヒーヒヤー、ヒーヒヤ、ヒヤリホー…

戦後、県下で二百を数えた獅子舞も、今では大部分が中断され、市内でも高倉だけとなくなってしまった。

高倉の三頭の獅子だけが残って、老若の保存会の人々に守られ、頭を振り、たてがみをひるがえし奮闘している。

## 高倉獅子舞の構成

三頭立ての獅子舞で、ササラ獅子とも呼ばれています。<sup>まんどう</sup>万灯、貝吹き（ほら貝を吹く）、<sup>はながさ</sup>天狗、花笠、はいおい（軍配を持って案内する）、前獅子（男獅子）、中獅子（女獅子）、<sup>あとしし</sup>後獅子（男獅子）、笛吹き、歌うたいなどです。

### 花笠

「ささらっ子」とも言います。四人の童子が女装します。振袖の着物に黒足袋、紅白の鼻緒の草履をはき、手にササラ（古楽器）を持って、花笠をかぶります。



### 前獅子

前方の獅子で、獅子頭は白檀塗りで金色の宝珠を頭上にのせ、眉毛、歯が金色に塗られています。角は白檀と朱のらせん模様の棒角で、頭髪は鳥の毛が付いています。



### はいおい

陣羽織と「たっつけ」を着て、赤いたすきをかけ、鉢巻きをし、黒足袋にわらじをはきます。右手に軍配、左手に采配を持ちます。獅子を導いたり励ましたりします。



### 中獅子

女獅子です。獅子頭は朱塗りで金色の宝珠を頭上にのせ、歯が黒く塗られています。眉毛は馬の毛で作られ、角はなく、頭髪は馬の毛が付いています。



### 後獅子

後方の獅子で、獅子頭は黒塗りで金の宝珠を頭上にのせ、眉毛、歯が金で塗られています。角は金と黒のらせん模様の棒角で、頭髪は鳥の毛が付いています。



負けるな男獅子、  
がんばれ女獅子、  
ヒーヒーシヤシヤリホ…





## 高倉獅子舞の歴史

高倉獅子舞は、江戸時代から続く歴史ある行事で、市の無形文化財に指定されています。

毎年11月2日と3日に、豊作感謝、悪疫退散祈願のため、高倉日枝神社・稲荷神社・高福寺跡で、獅子舞が奉納されます。

獅子舞は、県内に二つの系統があり、一つは秩父を源流とする山岳系統、もう一つは川越を中心とする平野系統です。

高倉獅子舞は、その二つを合わせたものと言われており、美しい笛の音に合わせてクルウ(舞う)色鮮やかな獅子たちは、見るものを魅了します。

現在では、「高倉獅子舞保存会」が結成されており、子どもから大人まで、様々な年代の人が紡いでいく、まさに「伝統」行事となっています。

平成28年度には、長年の文化財保存・継承の功績により、一般社団法人日本善行会「秋季善行表彰」を受賞しました。

この表彰は、青少年の健全育成や、自然と文化財愛護などの見地から功績が認められる個人・団体を表彰するもので、60年を超える歴史を持つ賞です。

## 獅子舞の見どころ

高倉獅子舞の構成は、前ページのとおりですが、総勢30数人という大

人数で、二日間、高倉日枝神社を中心に周辺を巡り歩きます。

獅子は、ただ笛や太鼓で歩き回るだけでなく、各要所で特別の舞踊をします。

それぞれに物語があり、時には激しく舞い狂う所作をします。

「女獅子隠し」は、三頭の獅子が仲良く遊んでいるうちに、四人の花笠が四方から寄り集まって、女獅子を隠してしまいます。

狼狽した二頭の男獅子は、花笠の四方を狂ったように探し回ります。

そのうち、前獅子が女獅子を探し出し、一緒に舞い踊ります。

これを見た後獅子は、嫉妬し前獅子との間に女獅子の奪い合いが始まります。

この争いは繰り返し行われますが、次第に怒りの心を和らげ、最後には三頭で仲睦まじく戯れながら舞い踊ります。

## 伝統に触れる

躍動的で迫力があり、華やかでもある高倉獅子舞は、保存会の皆さんが練習を積み重ねて伝統を守っています。

その積み重ねにより、今も変わらず様々な方に親しまれており、毎年たくさんの方が見物人が訪れます。

高倉獅子舞に、ぜひ足を運んでいただき、鶴ヶ島の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。





高倉獅子舞保存会長に伺いました



せきぐちふみお 先生  
関口文雄さん

高倉獅子舞の魅力

かなり動きが激しい、腰の低い踊りだと思えます。他の地域は、獅子が立ったまま太鼓を叩いたりというのが比較的多いのですが、高倉獅子舞は、大きく動く中で太鼓を叩き、勇敢で激しい踊りです。

また、三頭の獅子それぞれの顔が、とても美しいのも特徴的です。その表情を見ていただきたいですね。獅子舞は、男獅子二頭による女獅子の取り合いの物語です。前獅子が優勢だったり、後獅子が優勢だったり、その時々で、けんかをする様子を見ていただくと、より楽しんでいただけると思います。

伝統の継承

10月の中旬から、各班に分かれて準備を始めます。買い出しや食事の準備、獅子の踊りや笛吹きの実習があります。他にも、花つくりや、わらびづくりなどの細かい作業もあります。

老若男女合わせて総勢100人を

超える方たちの協力があり、高倉獅子舞は成り立っています。

特に、笛の練習は年間を通して若い人を集めて練習をしており、力を入れているところです。

少子化時代にあつて、伝統行事を次世代に継承していくことは、鶴ヶ島に限らず、どの地域でも難しい問題となっています。

高倉地域では、全体として獅子舞に対しての意識を、昔と変わらず今も皆さんが持ってくれています。

また、他の地域からも担い手になってくれる子がおり、一生懸命やってくれています。とても頼もしく、うれしく思っています。

私たちが受け継いできた歴史と伝統を、未来へつなげていかなければなりません。

これからの高倉獅子舞

今年のお正月に、ワカバウオークで行われた出初式に初めて参加させていただきました。

知らなかったという方や、初めて見たという方がいらつしやり、多くの反響をいただきました。

江戸時代から長きに渡り引き継がれてきた「高倉獅子舞」という伝統行事を、今年もしっかりと皆さんにお見せしたいと思っています。

これからも、より多くの方に見に来ていただけるように、頑張りたいと思っています。

